令和６年度第１回小田原市青少年未来会議　会議録

１　日　時：令和６年８月20日（火）　午後３時00分～５時00分
２　会　場：生涯学習センターけやき　視聴覚室（３階）
３　出席者
⑴ 委員　笠原会長、本多副会長、堀内委員、吉田委員、益田委員、中島委員、北川委員、塩浦委員、赤羽委員、山下委員、竹内委員
⑵ 市職員　【子ども若者部】吉野部長、中井副部長
【子育て政策課】鈴木課長
【青少年課（事務局）】筒井課長、藤野係長、吉村主査、樽木主任、小西主事、内田主事補
⑶ 傍聴者　０人
４　次第
⑴ 開会
⑵ 委嘱状の交付
⑶ 副市長挨拶

青少年未来会議の委員をお引き受けいただき感謝申し上げます。
昨年度、青少年未来会議での中で議論を重ねていただき、全ての子ども若者が多くの選択肢の中で自分らしく生きることができるよう、またそれを支えていくための方針づくりに取り組んでいただいたところでございます。議会、教育委員会への報告、１ヶ月間のパブリックコメントを経て、３月に市民と行政とともに活動するための道しるべとなる方針を策定することができました。改めてお礼を申し上げます。この方針においては、次代を担う子ども若者と大人が、社会を構成する仲間となって、協力し支え合うパートナーとして、それぞれの多様な生き方を尊重し、自分らしく生き、自己を表現できる社会を目指していくという目標を掲げたところでございます。今年度は方針を踏まえて、新たに「(仮称)小田原市こども計画」を策定していく予定です。この計画においても委員の皆様の意見を伺いながら、策定作業を進めていきたいと考えております。
青少年未来会議のメンバーとしては、学識経験者の方や青少年健全育成活動に熱心に取り組んでおられる方、公募市民の方など幅広い方に就任していただいておりますので、本日は忌憚のないご意見をいただきたいと思います。
委員の皆様におかれましては、青少年の育成支援に向けまして、引き続きのお力添えを賜りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

⑷ 委員の自己紹介
⑸ 会長及び副会長の選出
⑹ 報告
ア 令和５年度青少年関係事業の実績報告（資料配布のみ）
イ 令和６年度青少年関係事業の予定（資料配布のみ）
⑺ 議題
ア 「こども計画」について
⑻ その他
⑼ 閉会

5　会議の概要　　【議事進行は笠原会長】

議　題 （1）協議事項 　ア　「こども計画」について	
事務局（吉村）	資料のとおり説明。
笠原会長	7月22日子ども・子育て会議に出席した。 皆様と一緒に作成した「小田原市子ども若者の未来を支える方針」に基づき１年かけて、どんな議論し何を大事にしたかをベースに話しをさせていただいた。この方針を踏まえて、こども計画を策定する。 この会議の皆さんと議論した内容、エッセンスをこども計画に反映することが一番大事である。細かい内容は会議録を見ていただくと、お分かりになるかと思うので、今日は意見交換に時間を割きたい。 子ども・子育て会議に参加して感じたことは、国の法律、こども大綱に基づきブレイクダウンしていくと、学校教育における憲法があり、学校教育基本法があり、学習指導要領と同じで、現場に降りてきたときに、言葉が難しくて、教職員に理念が届かない実態がある。これが現場では非常に大きな課題なっていて、子どもたちが世界の中で生きるため、どのような教育をしていくべきか話し合われているが、教職員たちに伝わらず、対応にズレが出ていることを実感している。とにかく言葉が難しい。市民の方、ましてや「こどもまんなか」で、子どもや保護者の方については、様々な社会的背景を持たれているし、日本に住んでいるが、外国籍の方、様々な方がいる。 基本理念にある「成長実感～」は、国でつくるレベルであれば、理解はできるが、市町村でつくるレベルがこれで良いのかと思ったところである。 昨年度の青少年未来会議では、各委員はそれぞれの所属組織や生活基盤で大事にしているものを踏まえ、具体的な言葉で話し合いが進んでいたと捉えている。こども計画もそのような進め方で策定していきたい。 基本理念、基本目標、基本施策について、ご意見いただき、子ども・子育て会議にお伝えしたいと考えている。
益田委員	そもそもの確認だが、昨年度策定した「小田原市子ども若者の未来を支える方針」は、これからも青少年育成の施策に生かされていくのか。それとも方針が内包されてしまうのか。私たちの立ち位置が分からない。どうなるのか。
中島委員	こども計画の「こども」が表す言葉というのは、「小田原市子ども若者の未来を支える方針」にある「子ども若者」まで踏み込んだものなのか。 「こども」があえて平仮名になっており、対象が広げているからなのか。
本多副会長	こども計画の構成案を見ると、ライフステージに居場所づくりや相談支援体制があるが、我々が策定した「小田原市子ども若者の未来を支える方針」が、そのままこども計画に入っていくのか。どういう形で策定していくのか前提を教えてほしい。 「こども計画」は国が作った大綱をもとにしているから平仮名にしているが、計画はどうするのか。
筒井課長	昨年度ご協議いただいた、「小田原市子ども若者の未来を支える方針」は位置づけ的には、子ども・若者計画に位置付けられる。こども大綱が一つに束ねたなかで、子供・若者育成支援推進法に基づいている。この法律を１つに束ねたものがこども大綱となる。

	こども大綱に基づいて策定するこども計画は、子ども・若者計画を包含できると規定されている。昨年度、策定した「小田原市子ども若者の未来を支える方針」を含めたものとしてこども計画を策定していくことになっている。「小田原市子ども若者の未来を支える方針」は、こども計画の中に含まれていくということで、ご理解をいただきたい。
笠原会長	含まれるという意味は、Ａというものが Ａのままこども計画に入るのか、考え方を大事にして、計画に取り入れていくのか。
筒井課長	後者の方で、方針の要素を含めた形でこども計画を作成していく。
笠原会長	そもそもこども計画は、できる規定ではあるが、小田原市としては、新しい計画として策定していく。去年作った「小田原市子ども若者の未来を支える方針」は無くなる、それに代わって我々が議論した要素をこども計画に含んでいくという理解でよいか。
筒井課長	第２期子ども・子育て支援事業計画は今年度、最終年度になる。 市では、子ども・子育て支援事業計画を第３期として策定するか、新たにこども計画を策定するか検討した結果、こども計画を策定していくことになった。
吉田委員	３つの方針や計画を合体するというのは、国で決まっていたことである。 子ども・子育て支援事業計画に吸収されるのではなく、新しい計画を作るにあたり、方針の要素を取り入れる。企業でいうと吸収ではなく、対等合併のイメージでやっていくという考え方になる。 皆様からすると、諮問を受けているのは子ども・子育て会議という点は、引っかかるかとは思う。 子ども・子育て会議では、国で決まるより前に、貧困対策を扱おうとなって、子ども・子育て支援事業計画に盛り込み、そして、青少年未来会議の「小田原市子ども若者の未来を支える方針」も取りいれようとなった。 そして、「小田原市子ども若者の未来を支える方針」の内容も大事にしたいので、子ども・子育て会議に笠原会長に出席をしていただいた。 また、違いとしては昨年度策定したのは方針であり、今年度策定するのは計画のため、方針の考え方を生かしていく。 「小田原市子ども若者の未来を支える方針」が無くなるわけではなく、話し合って積み上げたものを土台にして、事務局案にその考え方を十分盛り込んでこども計画を作る。
笠原会長	「子ども若者の未来を支える方針」と「子ども・子育て支援事業計画」の２つを踏まえて、新たな計画を作るので、プラス思考でより良いものを作っていきたい。
吉田委員	今日の会議の内容を踏まえ、事務局案をブラッシュアップしていきたい。 会議体が２つなので、分かりづらいなとは思う。
鈴木課長	子ども・子育て会議では、今まで子ども・子育て支援事業計画を第２期までやって、第３期に入るかという流れはあったが、こども計画は、国の方は努力義務で、３つも計画を作らなければならないのかと思ったが、既存の計画と一体となって策定できると各市町村には伝えてきた。 こども計画として２つある計画を一体化して作りたいと考えている。 「小田原市子ども若者の未来を支える方針」がないがしろにされることは全くなく、生かせる部分をしっかり生かしていきたい。
笠原会長	こども大綱を踏まえたかたちで策定するのであれば、国の考え方がどのように整理されたかを念頭に置きながら、計画案を考えていきたい。

	また、昨年度、我々が話し合った「小田原市子ども若者の未来を支える方針」とどう違うのかといった視点でも確認していただきたい。
中島委員	「小田原市子ども若者の未来を支える方針」では、実施方針で９項目ある。この方針に向けた具体的な施策は、現段階では検討していかないことが決定しているのか。
笠原会長	「小田原市子ども若者の未来を支える方針」については、具体的な施策については含まれず、次年度以降に策定する計画の中で整理していくとなっていたい。そのため、９つ示した実施方針の考え方を、こども計画に生かしていくということになる。
益田委員	お役所的で縦割りだなと思っている。同じ計画を作るのに、２種類別の会議で策定する。メンバーは違うし、やることも違うかもしれないが、同じことを２回会議で実施して、それぞれで意見が出て、それがメンバーでは共有されない。事務局も２課で擦り合わせをしなければならない。会議体自体を１つにまとめることはできないのか。
筒井課長	市の組織体制が実態として追い付いていない。 今年度、こども計画を策定する中で、今ある組織でより良い計画になる形を検討し、ベターな形として今の体制になっている。
吉田委員	県でも子ども・子育て会議の委員になっていた。県では計画策定にあたり複数の会議体が１つの会議体になった。市では対応が追い付いていないとのことだが、話し合いの場を一緒に設けるということは、検討すべきかと思う。
笠原会長	市では２つの会議体を１つにまとめることについては議論されなかったのか。
鈴木課長	来年度以降の会議体の在り方は、県も会議体を一つにしていることもあり、皆様が納得できるような会議体にしたいとは考えているが、今年度はこの体制でお願いしたい。
本多副会長	実施方針の９項目について、こども計画は、「小田原市子ども若者の未来を支える方針」を踏まえた中で策定していくのか。
鈴木課長	こども計画の案には、ライフステージ別の施策で「学童期」、「青年期」等あるが、それぞれのフェーズで施策を策定するので、方針の内容も踏まえて計画を策定していきたい。
笠原会長	２回目以降の会議は合同開催を検討いただきたい。別々にやっても非効率である。より良い方向で、より良い議論が成されていく方向で実施していくことが大事かと思う。合同での会議の調整は可能なのか、事務局の意見を聞きたい。
吉野部長	「子ども若者の未来を支える方針」の内容や、会議録を確認し、皆様の思いを感じている。子ども・子育て会議にこども計画の策定を諮問しているが、会議の進め方については、皆様の御意見を踏まえた上で、合同会議なのか、分科会を実施するのかについては、一度持ち帰り、検討したい。
堀内委員	笠原会長からも仰っていた言葉が難しいということに関連しての感想になるが、基本理念で話題になっていた、「～自立した個人として成長実感を得られ～」の部分について「こどもまんなか」という視点で、大人が子どもに説明することを前提に、子どもが理解できる言葉へ言い換えるとしたらと考えていた。 「自立した個人として、成長実感を得られ」という状況は、まずは一人の人間として尊重されている状態であり、成長実感は自己肯定感ともいえる。家庭科を専門としているが、家庭科は前の自分とは違う、新たなもの

	が身に付いたという実感が見えてくる教科である。自分が成長できたという実感を、子どもたちが具体的に得られるのはどういうことかを考えながらこの文章を見ていた。 同じように、「将来にわたって幸せな状態」と言ってしまうのは簡単だが、子どもたちが幸せを実感できる状況はどのような時なのか、それを大人たちがどのように保障していくか、地域ぐるみで実現しますとあるが、何があれば実現できるのか分かりにくい。基本理念が抽象的なのはやむを得ないが、そこを具体化していくことが施策としては不可欠で、施策が理念のどこに結びついているのか見える形の文章になっていると良いのかなと思った。
北川委員	率直に感じたことは、言葉の部分で子どもから見たら捉えにくい部分がある。 「地域ぐるみで実現」とあるが、地域で実現してくれるのか。「地域ぐるみで実現を目指していく」であればわかるが、断言して良いのか疑問がある。
益田委員	基本理念の「～実現します」というのは誰が実現するのか、誰の考え方なのか。私たちが昨年度、方針を策定する上で大切にしていたのは、子ども若者と一緒につくっていくということ。次代を担う子ども若者と大人が社会を構成する仲間として互いに協力する、というこのようなエッセンスが基本理念に無いと感じた。
吉田委員	基本理念、基本目標については、青少年未来会議も考える主体であって、我々も責任をもって作っていかなければならない。両方の意見を記録して、事務局で修正して委員会の案になっていく。 笠原会長も言われていたが、こどもが主体になっていない、こども大綱に引っ張られすぎているので、私たちの小田原の言葉に言い換えなければならないと思う。
竹内委員	基本施策に理念が繋がっていると見えることが大切かと思う。 理念が３つの要素に分かれている。１つ目が「自立した個人として成長実感を得る」、２つ目が「どんな社会を目指すか」、３つ目が「地域ぐるみで実現します」。それぞれのパーツで委員の皆さんが感じることを言ってもらうのが良いのではないか。 また、私たちが考えた文章を作っていいのか、部分、部分での提案にとどめるべきなのか、どこをゴールにしたら良いのか掴み切れていない。
鈴木課長	代替案をいただいたら、それを加えた形で再度提示したい。無駄になることはないので、様々な意見をいただきたい。
竹内委員	誰が中心となるのかは、一つ大きいキーワードになる。
中島委員	ウェルビーイングが中心になってくるのではないか。先程、堀内委員も言われた成長実感は、「自己肯定感」という言葉は良いのではいかと思う。 できるだけ、端的な言葉で文章的に長くない方が良いかと思う。 基本目標は、「子ども若者の未来を支える方針」の基本方針３つに置き換えても良いのではないか。
竹内委員	基本目標の（1）「等しく健やかに成長実感が得られる」というのは、成長を等しくコントロールできるイメージが無く、違和感がある。 （3）「自分らしさを表現」というのは、表現できること自体、１人１人のらしさにもよるので、自分らしくいられる社会の方が良いのではないか。

堀内委員	等しくというのは、言い換えると「だれひとり取り残されない社会」、ウェルビーイングの状態ということかと感じた。
赤羽委員	平等と公平の考え方の違い。平等はスタートラインを合わせる。公平は背の小さい人に土台を置いてあげる、ゴールが同じイメージなので、公平がより適切な言葉かと感じた。
笠原会長	堀内委員の「誰一人取り残されない」という考え方と、赤羽委員の意見の「平等」と「公平」の違いは、インクルーシブの考え方の一番基本的なことで、「平等」と「公平」を取り違えてなかなか進んでいかないというもあるので、このような内容も含めていけたらと思う。
益田委員	基本理念にある、「将来にわたって幸せな状態」、ウェルビーイングは言い方こそ柔らかいが、すごくプレッシャーを感じる。何が幸せかは個々で違うし、誰が決めるのかということもあり、「将来にわたって幸せな状態で生活を送る」という言葉は変えた方が良いと思う。
塩浦委員	基本理念のところで分かりやすい言葉を使うというのは分かるが難しい。例えば学校の教員に、こういう学校にしようというのを文章にして出しても伝わらない。10年後の学校の姿など物語として書いて、示して初めて伝わる気がする。 計画の文章は、我々が読めばある程度イメージできるが、子育て世代が読んだ時にどのように読み取れるのか。
山下委員	基本理念、基本目標は、子どもはどのような社会だったら良いのか、子どもたちが思い浮かべられる言葉を選ぶと良いかと思う。 子どもは一人では育たないので、どう育てていくのか、子どもを育てやすい社会づくりの視点も入れた方が良いかと感じた。こどもまんなかの視点では無いかと思うが、子どもが育っていく上では子どもが育てやすい社会づくりという視点も必要かと思う。 ０歳から 30 歳くらいまで子ども若者だとされているが、障がいのある子どもに対応していないような印象を持った。何か説明できるかたちの方が良いのかと思った。
笠原会長	こども大綱説明資料の Ｐ４にある、「こども施策に関する重要事項」にある、下３項目は入っていない。障害児支援、児童虐待防止対策、自殺対策などの視点が計画案には入っていないように見える。
益田委員	計画（案）には項目→事業例とあるが、項目の後に説明文章が入った方が分かりやすいかと思う。
笠原会長	既存事業例があることで、非常に分かりづらく、引っ張られてしまう。あくまでもイメージしやすいように記載されたかと思うが、こういう考え方という文章で整理にした方が良いのではないか。 障害児の対応や自殺対策なども、この基本施策に含まれるといった整理の方が良いかと思う。
赤羽委員	資料３にこども計画策定に向けた調査等とあるが、調査の結果はどのあたりに反映されているのか。小田原独自の社会課題やニーズはどのあたりに反映されているのか。
鈴木課長	計画を策定するにあたり、「子ども・子育て支援事業計画に関するニーズ調査」の結果はＨＰに公開している。 今回初めて、若者に対しては結婚や妊娠に関してなど調査をしたところであり、調査結果は計画に反映していきたい。
笠原会長	子どもや子育て当事者に対する意見聴取はこれからになるのか。

鈴木課長	ニーズ調査では、子育て世帯には聞き取りしているが、当事者である子どもの意見聴取はまだ出来ていない。青少年課事業のジュニアリーダーや、関連団体の集まる場で来ているお子さんなどを通して聞き取りしたい。事業者の目線も必要かと思う。保護者から居場所が欲しいと意見は出ているが、実施者の観点から意見の聞き取りをしていきたい。
中島委員	学校にアンケートが来た時に、実施するのは難しいと思う。ただ意見が見える化されるなら、全校で実施は難しいかもしれないが、ICT 機器も入っていて、Googleフォームを活用など進んできているので不可能では無いのかなと思う。
鈴木課長	QRコードから読み取って、回答してもらうという手段も校長会には相談している。先日、小学生が議会見学に来て、子どもが様々な意見を言っておりましたので、ピックアップしていきたいと考えている。色々な場を意見聴取に活用していきたい。
笠原会長	保護者と子どもが一緒にアンケートを取れるようにするなど、時代に合わせてよりよい時期や方法について検討し、出来るだけ声が拾えるようにしていただきたい。同時に、障がいのある方や外国籍の方に対しても調査が実施できると理想的かと思う